

## 業界の垣根越えて、民間教育5団体中心に「民間教育団体連絡協議会」を発足

2018/10/26

[塾ニュース](#)、[塾ニュース](#) | [塾・企業](#)

[no comments](#)



一般社団法人全国外国語教育振興協会、公益社団法人全国学習塾協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会、一般社団法人日本スイミングクラブ協会、民間語学教育事業者協議会の5団体は10月26日、「民間教育団体連絡協議会」を設立すること明らかにした。

同協議会は、日本の教育における民間教育の担う役割の重要性が増していくことに加え、教育の国際化や主体性と創造性をもった未来の人材育成の観点から、特定の民間教育サービスに偏ることなく、民間教育サービスやそれぞれの業界の垣根を越えて、子供たちの未来のために考え、行動する団体を発足した。具体的には、教育基本法第12条にある「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない」という条項にもとづいて、多様化する個人の教育ニーズや、社会が要請する多様で有為な人材の育成において、教育サービスを提供する様々な民間教育サービスプロバイダーが集まり、民間教育団体および民間教育事業者のプラットフォームの確立を目指す。民間教育に携わる多くの人たちとのネットワークを形成し、様々な教育課題の解決に向けて、情報共有や意見交換などを活発に進めていくとしている。

同協議会には今後も複数の団体が加盟する予定だといい、幹事長に就任した全国学習塾協会の安藤大作会長は、「これまで業界を隔てて垣根のあった各団体も、大人の事情を乗り越えて、お互いに子供たちの未来のために垣根をなくして前向きに取り組んでいきたい」と挨拶した。



写真左から、全国外国語教育振興協会の桜林正巳事務局長、日本スイミングクラブ協会の澁谷俊一専務理事、全国学習塾協会の安藤大作会長、民間語学教育事業者協議会の矢野三登志常務理事、全日本ピアノ指導者協会の福田成康専務理事

# 民間教育団体がスクラム

## 子どもの学び 実現へ組織設立



さまざまな民間教育事業に関わる関係者がそれぞれの業界の壁を越えて、意見交換、交流する場をつくらう

と、民間教育団体連絡協議会が10月26日、設立された。公益社団法人全国学習塾協会の呼び掛けに、約1年間の

正会員5団体が増上。安藤幹事長(右端)が紹介

協議を経て、一般社団法人全国外国語教育振興協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会、一般社団法人日本スイミングクラブ協会、民間語学教育事業者協議会が正式に参加した。

未来を担う子どもが生き抜いていく力を育むため「それぞれの民間教育関係者が大人の事情を乗り越えて、貢献していく民間教育のプラットフォーム」づくりが狙いと、同協議会幹事長となった全国学習塾協会の安藤大作会長は話す。

教育への保護者の考え方の変化から、得意分野でのスキルを身に付けることを求めるこ

ーズも生まれていることを踏まえ、今後、民間教育の役割が増すことも視野に入れる。

設立総会後の設立パーティーに出席した下村博文・元文科相はあいさつの中で、フランスでの柔道人口が日本よりも多い背景に、授業で民間の道場の指導者から教わる環境があることを例に挙げ「全てを公教育で自己実現できる時代ではない」と、民間教育を含めた「オールジャパンでの教育」の必要性を指摘した。

安藤幹事長は「あくまで中心にいるのは子ども。家庭や学校など、子どもに関わる全ての関係者が手を取り合っ、子どもの学びを表現する一歩にしたい」と、抱負を語っている。

# 子どもたちの育成のため協議会を設立

## 民間教育団体連絡協議会

公益社団法人全国学習塾協会などの民間教育団体5団体は、「民間教育団体連絡協議会」を設立した。未来をつくる子どもたちや子どもたちの将来のために、それぞれの民間教育の垣根を越えて、社会への貢献・未来への貢献を推進し、その存在価値を高めるのが狙い。同協議会は当初、全国学習塾協会のほか、一般社団法人全国外国語教育振興協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会、同日本スイミングクラブ協会、民間語学教育事業者協議会でスタートし、今後、加盟団体を増やしていく予定。10月26日に開いた設立総会では役員の選出が行われ、全国学習塾協会の安藤大作会長が幹事長に選ばれた。



公益社団法人全国学習塾協会会長 安藤大作氏

学校教育との両輪としてこれまで大きな役割を担ってきた民間教育は、近年、日本の教育の国際化や主体性と創造性をもった未来の人材育成の観点から、その重要性が高まっている。教育基本法第12条では「個人の要

望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国および地方公共団体によって奨励されなければならない」とあり、多様化する個人の教育ニーズや社会が要請する有為な人材の育成で、教育サービスを提供

するさまざまな民間教育サービスプロバイダーは、今や日本にとって必要不可欠な教育資源となっている。

こうした背景から同協議会では、民間教育団体や民間教育事業者のプラットフォームを構築して民間教育に関わる人々のネットワークを形成し、さまざまな教育課題について情報共有や意見交換などを行っていく。

設立総会後の記念パーティーで、ピアノ指導者協会の福田成康専務理事が「昨年からのいろいろな団体に声をかけてきて、その中で本日、まずは5団体で民間教育団体連絡協議会が発足した。今後、ますますメンバーを広げて影響力を高めていき

い」と開会の辞を述べた。その後、安藤幹事長が「10年先、20年先の子どもの生き抜く未来に想いを馳せたときに、大人たちの事情は乗り越えましょうという声のもとに、1年間の協議を重ねて本日発足した」とあいさつ。また「協議会をつくるのが目的ではない。やれることを堂々と一歩前に踏み出しているいろいろな方とつながって、子どもたちのために大人の事情を乗り越えていく気概をもって、真剣に教育に向き合っ子どもたちを未来に送り届ける。子どもたちのために存在価値を示していきたい」と力強く語った。

パーティーにはこのほか、下村博文衆議院議員、大島九州男参議院議員、経済産業省の藤木俊光商務情報政策局商務・サービス審議官、文部科学省の清水明総合政策局局長らが出席し、祝辞を述べた。藤木審議官は「連絡協議会を通じて新しい教育のイノベーションにチャレンジしていく、それによって日本の教育を変えていく、ということにトライしてほしい」と期待感を示し、清水局長は「ジャンルを超えて協議会を設立し、子どもたちの育成のために社会貢献をしていくことに敬意を表する」と話した。



左から一般社団法人全国外国語教育振興協会事務局長 桜林正巳氏、民間語学教育事業者協議会副理事長 矢野三登志氏、一般社団法人日本スイミングクラブ協会専務理事 澁谷俊一氏、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会専務理事 福田成康氏

公益社団法人全国学習塾協会と民間教育団体5団体「民間教育団体連絡協議会」設立

「子供たちのために存在価値示したい」

公益社団法人全国学習塾協会などの民間教育団体5団体が、未来をつくる子供たちや子供たちの将来のために、それぞれの民間教育の垣根を越え、社会へ貢献・未来の貢献を推進し、その存在価値を高めることを目的に、先日都内で「民間教育団体連絡協議会」を設立。全国学習塾協会の安藤大作会長（写真）が幹事長に選出された。



同協議会は当初、外国語教育振興協会のほか、公益社団法人全国学習塾協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会、同日本スイミングクラブ協会でスタ

ートし、今後は加盟団体を増やしていく予定。

学校教育との両輪として、これまで大きな役割を担ってきた民間教育は近年、日本の教育の国際化や主体性と創造性をもった未来の人材育成の観点から、その重要性が高まっている。多様な個人の教育ニーズや社会が要請する有為な人材の育成で、教育サービスを提供するさまざまな民間教育サービスプロバイダーは、今や日本にとって必要不可欠な教育資源。

安藤幹事長は「協議会をつくるのが目的ではない。堂々と一歩前に踏み出して、いろいろな方とつながって、子供たちのために大人の事情を乗り越えていく気概をもって、真剣に教育に向き合って子供たちを未来に送り届ける。子供たちのために存在価値を示していきたい」と力強く語った。